

## 観光庁アドバイザー・ボード（第3回）議事概要（速報版）

1. 日時 平成21年7月16日（木）15:00～17:00

2. 場所 国土交通省観光庁国際会議室

### 3. 出席者

#### 【メンバー】

生田 正治 氏、奥田 務 氏、絹谷 幸二 氏、中田 英寿 氏、  
モンテ カセム 氏、吉田 忠裕 氏

#### 【観光庁】

本保長官、武藤次長、甲斐審議官、花角総務課長 ほか

### 4. メンバーからの主な意見

○インバウンドの落ち込みについて、原因をもっと精緻に分析すべき。中国からのインバウンドは、ビザさえうまくいけば驚くほど伸びる。いきなりすべて解禁するのではなく、統制の取れた、管理されたツーリズムという視点のもと施策を進めていくことが大事。

○日本のホテル業界の国際競争力が弱い。観光は裾野の広い産業なので、国の不況対策・経済政策として、観光施設の改良等を進めることなどを考えてはどうか。

○リスクマネジメントに関連して、メディアは感情論に流れがちなので、観光庁の持っている情報を正確に教育機関等に対して伝えるべき。

○休暇の関係で、労働時間は年間2400時間の時代から今はもう2000時間を切った。400時間とは1日10時間として40日分。つまり、ロングステイで単価の安い旅行商品が受け皿となるので、そのような旅行商品が開発されるような基盤づくりに支援すべき。

○インバウンド2010年に1000万人という目標は並大抵のことでは達成できない。景気の回復には結構時間がかかると見込んでいる。インバウンドはアジア系の占める割合が高いので、かなり思い切って、アジアを対象に重点的にプロ

モーションを行うということをして良いのではないか。特に、中国はインバウンドが伸びているので重点的に施策を進めるべき。ビザ緩和については、年収・地域・保証金などの条件を期間限定の措置でも構わないので、緩和してみてもどうか。

○医療観光について、東南アジアの人々は日本の医療に大きな信頼感を持っている。

○通訳案内士の資格について、現在は日本全国と都道府県別に別れているが、必ずしも旅行の実態に合っていない。将来の道州制等も見据え、都道府県を越えて広域的に活動できるような制度改正を期待する。

○旅行の自由度が低い。かつてはグループでの旅行が主であったが、これからは一人旅が増えていく。パック旅行を前提としていて、1人で行くと宿泊を断らたり、料金が高かったりするところがある。個人旅行がしにくく、グループ旅行に対するサービスとの落差がひどすぎる。1泊2食付きという縛りも旅行者のニーズに合っていない。食事込みというのは非常に問題。その点、泊食分離はいい施策だと思う。個人の食生活も多様化してきているし、健康志向もある。難しい課題だが、解決に向けた支援をすべき。

○地方としては、観光関係の補助金を一本化してほしいという思いがある。地方が自由に、ダイナミックに使える仕組みにすべき。

○1人で旅行するときの弊害は大きい。ネットで宿泊予約しようとしても、そもそも1人では泊まれないようになっていたり、宿泊できる施設が少なかったりする。

○現地で情報を集めようと思っても、旅館が勉強不足でなかなか情報が手に入らない。現地の人しか知らない情報を現地の人々の間で共有し、連携して地域を盛り上げていく必要がある。別々の情報を持っていたのではなかなか伸びない。

○アイデアとして、地域通貨のようなものが出てくると流行るのではないか。東京で貯めたポイントが旅行先の地方で使えるなど。

○インフルエンザについて、海外からみると日本の報道は大げさだと感じた。

ヨーロッパなどでは全く報道されず、逆に日本の様子をニュースにしていたくらい。異様な事態だった。情報管理というか、正確な情報をもっとうまく流していくような仕掛けを観光庁がやってもいいと思う。

○日本は古来、雨が多く潮風が吹く風土だったので、細菌の発生・流行が抑えられ、伝染病が流行らなかった。このような水の恩恵をよく認識し、日本は美しい水のある国だという点をもっと宣伝すべき。美しい島日本に行こう、というキャンペーン。

○日本の旅館やホテルには食事もお土産屋もついていて、困り込まれる印象。外国であれば、夜になればショーもやってるし買い物もでき、街も活性化する。例えば観光大学や美術学校・音楽大学の学生に対して今までなかったお土産を開発してもらうなど、協力を呼びかけるのもいい。また、旅館やホテルの料理人がもっと努力をし、外国料理との折衷料理のように、旅行者の舌に合うような改良に努めるよう呼びかけを行うことも大事。

○観光庁関連の記事はかなり増えてきていて、情報発信もかなりしていると思うが、しいて言えば、もっと長官の顔が出ればいいと思う。

○インフルエンザ騒動の時は国際会議が全部キャンセルになった。その後テレビ会議が使われるようになり、今は「テレビ会議でも十分」という雰囲気になってきたところ。このように、1つの問題を契機に新しい発見もあり、変わっていく面もある。観光にとってプラスの要因・マイナスの要因とは何なのかというところを分析し突き詰めていくことが重要。観光に伴う負の側面も必ずあり、アクションに伴う連鎖的な問題についてもよく考えてほしい。1つ1つの現象を捉えてしっかり分析し、その結果を積み重ねていくことが重要。

○インフルエンザの情報発信について、日本は過剰だったという意見があったが、逆手に取れば、それだけ情報操作をできる国ということ。観光庁が戦略を練って世の中をうまく誘導していくべき。

○観光はコンテンツが最も大事。コンテンツが無ければリピーターにならないし行きたいというふうには思わない。そのためコンテンツを深掘りすることが重要。自然環境や食などいろいろあると思うが、大事に守らなければならない部分と変えていくべき部分とがあり、これらを峻別することが必要。

- 日本の良さは突き詰めれば質の高さにあると考えている。品質にはいろいろなものがあり、お金で解決するものだけでなく精神的なものもあるので一概に言えないが、供給する側の質の向上をどのように誘導していくのか、ということが大事。あまりにも質の悪いものは排除していく、ということは、どこの企業でもやっていること。観光庁が×をつけるのではなく、自然に淘汰されていく仕組みがあればいい。競争という枠組みの中で、いろいろな品質の中からひとつでも多くの成功事例を作るべき。
- 広告にもある程度の品質・品格が必要。広告を通じて「安物日本」「女性蔑視の国日本」というようなイメージが出てしまうこともある。広告の場所や内容について規制・指導することも重要。
- 観光庁は観光政策のマクロ政策を対応している。ミクロについては観光関連の企業ががんばる。結局、これらマクロとミクロをつなぐ地方自治体がどういう役割を果たすかが鍵となるだろう。知事・市長が本気にならなければうまくいかない。彼らが観光政策の必要性を認識するように、例えば先日行われた知事会議のような場を設けてアピールするとか、知名度の高い知事に応援してもらおうとか。マクロ・ミクロを含めた全体を動かすという視点が重要。また、道州制を先取りして、県を超えた取組ができるように考えて欲しい。
- 予算については、取れるものは取ってやればいい。そして、無駄遣いしていないかこういう場で議論してチェックできればいい。
- 観光立国は国として推進していることなので、JETROなどもうまく使ってやるべき。
- 高速道路1000円になった反面、フェリー会社が疲弊している。高速道路もフェリーも国土交通省が所管しているのだから、新しいアイデアを持って、例えば瀬戸内海周遊フェリーのような企画旅行を作るなど、うまく考えればウィンウィンの関係になるはず。
- 中国と経産省との間で中堅幹部交流というのをやっている。こういうところにも観光庁がアプローチしてはどうか。使えるものはどんどん使っていく、他省庁との連携が重要。

○ただ2,000万人連れてくれば良いというだけではだめ。観光を通じて、我が国の防衛や教育のあり方を考えるという視点が重要。

○観光は、あらゆるところに手が届く反面、分散してしまっている印象。観光庁の役割の1つは、それらを統括できるということ。

○リスクマネジメントに関連して、より精緻な情報が必要。新型インフルエンザでインバウンドが落ち込んだというだけでなく、例えば原宿の竹下通りでは人が減ったのかなど、細かいメッシュで把握する必要がある。

○魅力ある観光地づくりに関連して、行った先もさることながら、行くまでが渋滞だとか、電線がいっぱいだとか、周辺環境が整っていないこともある。

○国民の意識で観光を考えると、休暇は非常に重要なポイント。フランスのバカンスは、孫とおじいちゃんが出会える時期。普段は家族は分散しているがバカンス時期は一緒になれる。日本は里帰りの文化があるから、これに馴染むかもしれない。もう少し休暇の関係でアプローチで何かできないか、よく考えてほしい。

(文責 観光庁総務課企画室 速報のため事後修正の可能性あり)